

とツクシヒトツバテンナンショウの差異は、ツクシヒトツバテンナンショウとツクシマムシグサの差異よりはるかに著しい。したがって本種は、結局のところ新種として記載されるべきものである。

引用文献

- Engler, A. 1920. Die Pflanzenreich IV-23F: 207. 堀田 満 (Hotta, M.) 1969. Taxonomy of the family Araceae in eastern Asia 2: 114-118. Miquel F.A.V. 1866. Ann. Mus. Bot. Lugd. Bat. 2: 202. 中井猛之進 1937. 東亜植物図説 2: 141-145, t. 56. 大井次三郎 1953. 日本植物誌 254. ——1965. 日本植物誌 (改訂版) 301.

Summary

The *Arisaema maximowiczii* group in Japan consists of three taxa, i. e. *A. maximowiczii* subsp. *maximowiczii*, *A. maximowiczii* subsp. *tashiroi* and *A. unzenense*. *A. unzenense* is a new species endemic to Mt. Unzen, and is well characterized by the very slender spadix-appendages.

○高等植物分布資料(104) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (104)

○ヤクシマアカシュスラン *Hetaeria yakusimensis* (Masamune) Masamune new to the Kii Peninsula of Honshu 三重県尾鷲市九鬼(九木)崎の常緑広葉樹林下(海拔約 100 m)で、1980年樋口勇一・伊藤良両氏はシュスラン状の変ったランを見出された。それを伊藤氏が栽植し、1981年10月開花した生品の一部をわけて下さった。調べたところ、ヤクシマアカシュスランであることが分った。葉は暗緑色で白っぽい中肋をもった型で、茎は高さ 20 cm 位になり十数花をつけ、唇弁下部の小突起が分り難い花もあったがはっきり認められる花もあった。本種はこれまで九州南部以南琉球・台湾と遠く離れて伊豆七島に分布することが、正宗・里見両氏によって「北陸の植物」14: 81 (1966) に分布図を伴って報告されている。今回の産地は上記両地域の間にあたるもので興味深い。貴重な生植物を分与して下さいました伊藤良氏に深謝します。

(原 寛 Hiroshi HARA)